

# 第 6 4 回 通 常 総 会 議 事 録

東京都新宿区津久戸町 4 番 6 号  
公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会

日 時：令和 5 年 5 月 2 6 日（金） 15:30～17:30  
場 所：東京都千代田区九段北 4-2-25 アルカディア市ヶ谷（私学会館）

## 1. 開 会

奥谷専務理事が開会を宣言し、出席正会員は委任状とも 1,368 名で、定款第 17 条に規定する、正会員総数 2,465 名の 2 分の 1 以上の出席を得ているので、本総会は成立する旨報告があった。なお、役員 3 名がウェブ会議システムにより出席した。

## 2. 出席役員

会長：阿波野昌幸、副会長：下村 匠、三島康造、専務理事：奥谷祐介、  
理事：井上 晋、大信田秀治、太田義弘、春日昭夫、勝木 太<sup>○</sup>、岸本一藏、  
九富 理、齊藤成彦、佐藤忠宏、佐藤靖彦<sup>○</sup>、左東有次、中野元裕<sup>○</sup>、  
並川賢治、西山峰広、細谷 学、八木恵治、渡辺博志の各理事  
監事：大村一馬、花島 崇、松原喜之  
顧問：二羽淳一郎

注）○印は、ウェブ会議システムによる出席者を示す。

## 3. 阿波野会長挨拶（要旨）

第 6 4 回通常総会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が 5 月から第 5 類相当へと移行になり、4 年ぶりの完全対面での通常総会が開催できることを心より喜んでいる。

コロナ感染拡大が及ぼした影響は、各企業の活動や個人の日々の生活を大きく変え、社会経済にも大きな影響を与えた。一方で、テレワークの広がりや会議等のオンライン化により、利便性が高まった一面がある。本工学会でも理事会や委員会をオンライン併用とすることで制約を受けることなく多くの方が出席できるようになった。

毎年 6 月に開催している P C 技術講習会も一昨年よりオンラインで開催しており、非常に多くの方に参加いただいている。10 月の P C シンポジウムは、多くの技術者、研究者との交流を深めていただくという観点から対面での現地開催を計画し、本年は 10 月に福島県郡山市にて皆様に集まっただけのよう準備を進めている。

昨今の社会を取り巻く状況は、少子高齢化、人口減少が進み、厳しい財政状況のも

と、インフラ構造物の老朽化や近年頻発する大規模自然災害を背景に、安全で安心なインフラの整備、維持管理・更新が求められている。P C技術は、新材料やI C Tなど関連技術を取り込みながら、持続可能な社会に大いに貢献できると確信している。

生産性の向上、長寿命化、環境負荷低減、防災・減災にもっと活用されるよう、技術規準類の整備、技術情報の発信を図っていかねばならないと考えている。

また、個人の思いとして、建築分野にもっとP C構造を広めることに努めていきたい。単にロングスパンのコンクリート構造というだけでなく、プレキャストを採用したデザインされた魅力的なP C建築が産み出されることを願っている。これには、建築家と言われる意匠デザイナーのP C構造への理解が必要であるとともに、建築家の卵といえる学生にはP C建築の魅力を伝えていかねばならないと考えている。

本工学会の課題の一つに、若手の設計者や技術者の入会増強、学生会員の入会増強という課題がある。会員増加推進小委員会にて入会増強の方策を検討しているが、会員の皆様のお声かけによって会員の増強を図っていただければと願う。

本工学会の活動については、P Cに関する技術規準の整備発刊、会誌「プレストレストコンクリート」の年6回の発行、「P C技術講習会」および「P Cシンポジウム」の開催ならびに技術者資格認定事業を主な活動としている。これらの活動が、年々充実してきたことは、ひとえに会員各位の皆さまをはじめ、関係各位のご支援とご協力の賜物であると厚く御礼申し上げる。

海外活動としては、本工学会は、国際組織である *fib* に日本コンクリート工学会とともに日本を代表して参画している。本工学会理事でもある春日昭夫氏が昨年12月まで *fib* 会長を務められていた。その間、春日会長より持続可能な社会の発展に向けて貢献できるよう力強いメッセージが発信された。

昨年2月に始まった、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、未だ終わりが見えない状況であり、ウクライナ国内でのインフラや建築物が破壊されている映像を目の当たりにするたびに、恐怖と悲しみの気持ちがあふれてくるとともに、多くの亡くなられた方に哀悼の意を表する次第である。先日終了したG7 広島サミットにおいて、岸田首相から「核兵器のない世界」に向けて取り組んでいく決意を改めて共有し、核軍縮に焦点を当てた「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が発出された。一刻も早く侵略行為が終結し、平和な世界に戻ることを切に願っている。

会員の皆さまにおかれては、益々ご活躍されることを祈念するとともに、本工学会へのご支援をお願い申し上げます。

本日は令和4年度の事業についてご審議を賜り、併せて議事の進行にご協力の程をお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

#### 4. 議長選出

奥谷専務理事から本総会の議長は定款第15条により、会長がこれに当たるとの説明があり、阿波野会長を議長とした。

## 5. 議事録署名人の指名

議長発言にて、定款第19条の規定では、議事録署名人は、議長および議長が指名する出席者2名以上としている旨、説明があり、次の両氏が指名された。

下村 匠氏                      三島康造氏

## 6. 議 事

### 第1号議案 令和4年度事業報告

議長より三島副会長が指名され、本日配布の議案説明が行われた後、議場に諮った結果、原案どおり承認議決された。

### 第2号議案 令和4年度収支決算報告

議長より奥谷専務理事が指名され、まず令和4年度収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、および財産目録に関し説明があった。

さらに、松原監事から監査の結果、何れも適正且つ妥当であった旨の監査報告、ならびに本決算報告について茂利公認会計士のご指導を受けたとの報告があり、議場に諮った結果、原案どおり承認議決された。

### 第3号議案 役員改選

議長より本工学会の役員の改選については、毎年約半数の改選が行われ、新任ならびに再任役員の選任については、総会の承認を要する旨の説明があった。

すなわち、本通常総会の終結をもって理事春日昭夫、勝木 太、佐藤靖彦、左東有次、玉井真一、中野元裕、並川賢治、西山峰広、細谷 学、渡辺博志および監事大村一馬、松原喜之の任期が満了し、また理事大信田秀治氏、三島康造氏より辞任の申し出があったため、次に示す表により理事および監事を選任したい旨を議場に諮った結果、満場一致で承認議決された。

なお、新任理事の大山博明氏、二井谷教治氏は、辞任理事の三島康造氏および大信田秀治氏の後任として、任期は残任期間となる。

新任・再任役員		継続役員	
理 事	大 山 博 明 (新任)	理 事	阿波野 昌 幸
同	加 古 聡一郎 (新任)	同	井 上 晋
同	平 喜 彦 (新任)	同	太 田 義 弘
同	二井谷 教 治 (新任)	同	奥 谷 祐 介
同	松 原 喜 之 (新任)	同	岸 本 一 藏
同	勝 木 太 (再任)	同	九 富 理
同	佐 藤 靖 彦 (再任)	同	齊 藤 成 彦
同	左 東 有 次 (再任)	同	佐 藤 忠 宏
同	玉 井 真 一 (再任)	同	下 村 匠

同	西	山	峰	広	(再任)	同	中	村	光
同	細	谷		学	(再任)	同	八	木	恵
同	渡	辺	博	志	(再任)	監	花	島	崇
監	中	野	元	裕	(新任)	事			
同	大	村	一	馬	(再任)				
辞任理事	大	信	田	秀	治				
同	三	島	康	造					

議長発言にて、続いて行う第1号報告の令和5年度事業計画および第2号報告の令和5年度収支予算については、3月17日に開催した第662回理事会において、審議の上、承認されている旨、報告があった。

#### 第1号報告 令和5年度事業計画

議長より下村副会長が指名され、令和5年度事業計画の説明があり、了承された。

#### 第2号報告 令和5年度収支予算

議長より奥谷専務理事が指名され、令和5年度収支予算書に関し説明があり、了承された。

### 7. 名誉会員推挙

議長より、本会ならびにプレストレストコンクリート技術の普及と進歩発展のため、長年にわたり功績を残された方を名誉会員に推挙しているとの説明があった。本年度の候補者として和泉公比古氏、佐藤卓夫氏、浜原正行氏および平岡慎雄氏が披露され、総会に諮った結果、満場一致で名誉会員への推挙が承認された。

### 8. プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和4年度プレストレストコンクリート工学会賞の授与について、工学会賞選考委員会井上委員長から、令和4年度工学会賞選考理由について説明がなされた。

#### ○論文賞（賞状と記念品）

- 加熱改質フライアッシュを用いたPC構造物の  
高耐久化に関する研究
- 北野 勇一 殿  
水戸 健介 殿  
秋吉 善忠 殿  
伊藤 始 殿
- （会誌第64巻6号）

- 脱塩後19年経過したP C T桁のかぶり部分の化学分析  
 (第31回プレストレストコンクリートの発展に  
 関するシンポジウム論文集)
 中村文香 殿  
 正木 守 殿  
 七澤 章 殿  
 宮里心一 殿

○作品賞（賞状と記念盾）

（土木部門）

- 吉野川サンライズ大橋 西日本高速道路(株) 四国支社 殿
- 岩城橋 愛媛県 殿
- 西九州新幹線 第2本明川橋りょう  
 (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 九州新幹線建設局 殿  
 八千代エンジニアリング(株) 殿  
 鉄建・九鉄・堀内特定建設工事共同企業体 殿

（建築部門）

- 川口市立高等学校 川口市 殿  
 (株)久米設計 殿  
 川口土木建築工業(株) 殿  
 (株)ピーエス三菱 殿
- 豊洲MiChiの駅 清水建設(株) 殿

（改築・改修部門）

- 蓼野第二橋（下り線）床版取替 西日本高速道路(株) 殿  
 三井住友建設(株) 殿  
 (株)日本ピーエス 殿
- つめた谷橋（下り線）の拡幅 西日本高速道路(株) 殿  
 (株)ピーエス三菱 殿

○技術開発賞

応募なし

○施工技術賞（賞状と記念盾）

- 国道3号千歳橋補修工事 (株)富士ピー・エス 殿

9. 閉 会

奥谷専務理事が閉会を宣し、第64回通常総会は滞りなく終了した。

令和5年5月26日

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会

議長・会長 阿波野 昌 幸 ⑩

署 名 人 下 村 匠 ⑩

署 名 人 三 島 康 造 ⑩